

「あいさつは3の声で元気よく」提案による次の手

「おはようございます！！」

今朝は氷点下の厳しい寒さとなりましたが、校門にはこれまでとは違うさらに大きな挨拶の声が響き渡っています。



「これからは挨拶は3の声でしましょう。」

始業式で、菊川生徒指導主任が全校に呼びかけました。2学期後半も朝の挨拶はよくできていましたが、寒くなり声の元気が足りない気はしていました。「もっと大きな声で」と個別に声かけをしていましたが、なかなか変わりませんでした。

そんな中で、始業式の呼びかけがありました。菊川先生の声かけは絶大ですね。下校時から一気に変わりました。

「さようなら。」始業式の日の下校時、正門で、原田先生と私は声かけをしました。その時は、二人とも、始業式での指導を受け、「挨拶は3の声で」という言葉を何十回と付け加えました。

最後には声がかれそうになった私は、次の日の朝、「挨拶は3の声で元気よく」というカードを作って、首にぶら下げることになりました。

ラミネートをしに印刷室に行くと、既にラミネーターが温かくなっていました。そこにいた宮本先生が、さっき原田先生も同じようなカードを作っておられましたよ、と言われました。

二人とも発想が同じでした。原田先生は、

カードを手に持って声かけをしています。それから私たちは、「3の声」とはほとんど言わなくて済んでいます。とても素直な子ども達は、胸のカードをちらっと見ながら、3以上（4や5の声の子もいます）の声で、しかも、これまで以上に笑顔で挨拶をしています。

なかなか変化しなかった挨拶が一気に変わりました。定着はこれからですが、意識は変わったと思います。

美礼時を始めとする良城しぐさも、「次の手」が大事ですね。各主任から提案がされてこそ、他の先生方の新たなアイデアが加わります。職員単独ではなかなか効果的な取組は進みません。その意味で、各校務分掌担当者中でも各主任の責務は重いと言えます。

「取組が進まない、遅れているのは担当者の自分の責任」私は、教務主任になってから常にそう感じ、自分だからこそ次の手の提案に努めてきました。「今年の〇〇は違うね。楽しい。おもしろい。」という子どもの声は何よりうれしかったです。

皆さんも、子どもの変容を楽しみに、自



分の分掌での次の手、自分だからこそこの提案をお願いします。きっと、他の先生も待ってられるはずですよ。